



東京大東洋文化研究所准教授

# 緊張関係は続く 佐橋亮氏

米中両首脳は、双方が国内の政治的基盤を固めたという自信を持って会談に臨んだ。良好な雰囲気の中で軍事的衝突を回避したい意思を示し、関係改善と競争の管理に意欲を示したことは一定の意義があった。だが具体的な合意や米中対立の転機となる歩み寄りがあったわけではない。衝突への発展が懸念される緊張関係が続くことに変わりはない。

最大の懸案である台湾問題について、米国は「一つの中国」政策を堅持するとしながらも、実質的には台湾防衛の強化に向け、政策の中身の入れ替えを続けている。また、中国の台湾に対する攻撃的な行動に明確な反対を示し、日本も含めた同盟国との関係強化に努めている。半導体関連の輸出規制など経済安全保障分野でも中国の競争力を弱体化させる米国の政策に変更はない。中国は不信感を抱き危機的だと認識しているが、今回の会談でも米国からは果実を何も得られなかった。

双方からロシアによるウクライナ侵攻に関する言及もあったが、中国が対露関係を犠牲にしてまで対米協調を図るといった戦略的判断をする段階ではない。気候変動なども含めて米中間の折衝や対話が続いても、両国とも緊張緩和より相手との競争に勝つことを優先するだろう。米中はこれまでも衝突回避のための安全保障のメカニズムを確立しようと努めているが、十分とは言えない。台湾海峡で有事が起きる危険性が払拭はらいつくされる見通しは立っていない。